

平成30年度地方創生推進交付金に係る事業実施結果報告

(各交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)の実績値等)

No	① 交付対象事業の名称	② 交付対象事業内容概要	③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				H29年度実績値	④ H30年度事業終了時における	
			指標		指標値	単位	目標年月	実績値	実績値
			指標①	県西地域2市8町における社会増減	0	人	H33. 3	-66	217
1	県西地域活性化プロジェクト	県西地域において、「未病の改善」をキーワードに、「自然」「食」「癒し」などの多彩な地域資源を生かした魅力の向上や普及啓発、人材育成、環境構築、「未病を改善する」ツーリズムの推進などの取組みを行い、地域の魅力を高めて交流人口の増加を図り、新たな活力を生み出す。	指標②	県西地域2市8町における入込観光客数	3,722	万人	H33. 3	3,617	3,654
			指標③	「県西未病観光コンシェルジュ」講座修了者数	500	人	H33. 3	371	456

No	①	②	③				④		⑤		⑥		⑦		
	交付対象事業の名称	交付対象事業実績内容概要	大井町における重要業績評価指標(KPI)				H29年度実績値	H30年度事業終了時における実績値	実績値を踏まえた事業の課題や今後の展開について		外部有識者からの評価		交付金の計画や 踏まえた地方版総 合戦略の見直しの 必要性		
			指標	指標値	単位	目標年月	実績値	実績値	事業効果	今後の方針	今後の方針の理由	事業の評価	外部有識者からの意見	有・無 有の場合は内容	
1	食と農業体験交流ブランド化促進事業	・ 交流体験事業人材育成・組織づくり委託料 9,496,440円(うち1／2は交付金充当) (1)交流体験事業ビジネス化のための指導者研修会開催 (2)体験交流や農家民泊等の受入れ農家育成研修会開催 (3)食や体験交流事業等の組織づくり →大井町の自然や特徴を活かした「体験観光」による経済効果につなげるため体験交流事業を進めている。その事業の運営や交流事業を受け入れる人材の育成をするため研修会を開催するとともに、今後の事業の発展を目指し、平成31年3月に「一般社団法人 神奈川大井の里体験観光協会」を地域住民を中心に設立した。 ・ 交流体験事業ブラッシュアップ等委託料 4,798,440円(うち1／2は交付金充当) (1)交流体験事業ビジネスモデルづくり →売れる体験事業を目指し、体験メニュー数や内容の充実を図るとともに、東京ビックサイトで開催された旅行関係の催事に出展し、交流体験事業のPRを行った。 ・ フェイジョア生産及び販路拡大事業補助金 1,086,654円(うち1／2は交付金充当) (1)商工会への商品開発補助 (2)フェイジョアの生産拡大補助 →町の特産物としての「フェイジョア」の価値を高める研究や商品開発を商工会等と連携して取り組んでいる。フェイジョア生産部会において栽培技術向上を目的とした講習会等を実施するとともに、足柄上商工会と連携してフェイジョアを使った商品開発に取り組んだ。 ・ 体験交流事業PRイベントの開催(四季の里まつり) 2,636,212円(うち1／2は交付金充当) →季節ごとに(年4回、計3,160名)体験交流事業のイベントを継続して開催しており、町外からの参加者へのPRと農業振興につなげている。	指標①	観光入込客数	250,000	人	H32. 3	220,883	466,832	地方創生に相当程度効果が あった	事業の継続	経済効果につながる事業として平成27年度から交付金を活用して継続的に取り組んでいる事業であり、「売れる体験交流事業」と「売れる食」の提供という地域のブランド化を目指す事業へ発展させることが必要である。「フェイジョア」については生産量が少ないこともあるが、未だ地域に浸透しているとは言えず、「売れる食」に向けて引き続き取り組む必要がある。 しかしながら、交流体験事業においては、収穫体験事業や大学との連携により交流体験受入数は増えるとともに、事業を担う指導者の育成も順調に推移してきており、今後も、交付金を活用して、さらに深化させる必要がある。本事業の自走化を図るため、一般社団法人 神奈川大井の里体験観光協会を起点として事業展開を図る必要がある。	総合戦略のKPI達成に有効であった	・(一社)神奈川大井の里体験観光協会は成功させていただきたい。その為の一つの方策として、他市町との広域化による施策を積極的に導入した観光行政の必要がある。 ・フェイジョア等地域の特産品開発において、生産者の開発投資にかかるリスク分散を検討してはどうか。 ・フェイジョアはいかににもPRが少なく販路拡大までいっていない。「花」もきれいだというので、それも含めて生産拡大を図るべきだ。	無
			指標②	交流体験事業受入数	10,000	人	H32. 3	2,180	6,105						
			指標③	交流体験事業指導者育成人数	80	人	H32. 3	43	65						
			指標④	交流体験受入事業開催数	60	件	H32. 3	45	45						
2	未病改善プログラムの普及	未病改善に向けたスポーツイベント等の開催費 2,100,000円(うち1／2は交付金充当) →「未病バレー『BIOTOPIA(ビोटピア)』」の一部オープンの賑わいを利用するとともに、ビोटピアと連携し、「スポーツ」「笑い」等をテーマに未病の概念普及や健康生活の普及促進を図るためのイベントを開催(4回)しました。(イベント延べ来場者約50,000人)	指標①				H32. 3	3,000	50,000	地方創生に相当程度効果が あった	事業の継続	イベントとして一過性のものとなりやすいことが課題であるものの「未病」という新たな言葉や意味は浸透するのに時間がかかるため、継続して取り組むことが必要である。 「未病バレー『BIOTOPIA(ビोटピア)』」の施設の周知も含めて、この施設が所在する町として「未病を改善する」をテーマとした事業に取り組んでいく。	総合戦略のKPI達成に有効であった	町内外からの人を呼び込み未病の周知は出来ていると思うが、町へ来た人に対する町内の経済循環やビोटピア施設と地域との連携が必要と感じる。	無
3	未病の「見える化」を図る 拠点を活用したライフスタイル見直しの動機付け	・ ライフスタイル見直しに向けたPRイベントの開催費 455,760円(うち1／2は交付金充当) →「いきいき・おおい・健康ステーション」を活用したセミナー(28名)を開催しました。 ・ 拠点運営費 114,544円(うち1／2は交付金充当) →自分の健康状態を把握することで、未病の「見える化」を図るために町福祉センターへ設置した「いきいき・おおい・健康ステーション」における測定器具等の維持や拠点運営を継続して行いました。(年度間利用者1,100名) ・ 県西未病観光コンシェルジュの配置 3,942,000円(うち1／2は交付金充当) →大井町の魅力や県西地域の魅力をPRするためによしもとと連携して県西未病観光コンシェルジュの資格を持つ芸人を配置し、事業に取り組んでもらいました。	指標①	未病関連事業への参加者数	5,000	人	H32. 3	1,445	1,128	地方創生に相当程度効果が あった	事業の継続	自然、食や癒しが豊富にある県西地域が「未病を改善する」エリアとして県から指定されていることや、その情報を発信する拠点施設として「未病バレー『BIOTOPIA(ビोटピア)』」が町内にあることから引き続き「未病」の概念の周知や未病の「見える化」を図る必要がある。 また、上記事業と同様に「未病」という新たな言葉や意味は浸透するのに時間がかかるが、こちらも継続して取り組むことが必要と考える。 一方で大井町の魅力や県西地域の魅力をPRするためによしもとと連携した県西未病観光コンシェルジュの配置は、町民の方に浸透してきており、引き続き取り組むことで未病に関する取組みや情報発信等に効果が期待できると考えている。	総合戦略のKPI達成に有効であった	・県西地域全体の課題であると捉えることも必要である。 ・有力な事業としてさらに地域での浸透を期待する。	無